

わーく&らいふ

平成29年3月6日 進路指導部発行

特集 卒業生保護者から、 後輩保護者へ伝えておきたいこと

一年間の「わーく&らいふ」ご愛読ありがとうございました。本年度最終号は、卒業生保護者から、これまでの子育てや進路選択を振り返っての感想・意見の特集です。

昨年11月に実施しました「わーく&らいふ」の中間評価アンケートにも「保護者の声を聞きたい」との声が多数寄せられました。少し先を歩んでおられる先輩の感想・意見には学べる内容がもりだくさんです。どうぞじっくりお読みください。

Q 1 進路選択で大切にしたいことは何ですか？

【1位】実習を通じた「親」の印象 5人

- ・実習でいろんなところへ行きましたが、子どもの可能性を今後も見守って行ける子どものやりがいのある職場として選択しました。
- ・就労先・支援先が本人に合っているのかを重視しました。
- ・本人の気持ち、実習を通してどこか安心した表情をしていた場所であったこと。
- ・本人が楽しんで行けるかどうか。
- ・職場の雰囲気がいいところ。



【2位】本人の得意なことが生かせる場であること 4人

- ・本人が得意とする、体力を生かした進路を選ぶように心がけました。
- ・手先が器用なのでそれを生かせる仕事についてほしいと思いました。
- ・体を動かす仕事を希望していました。
- ・本人の能力に合っているかどうか。

【3位】本人の意思を確認・尊重すること 4人

- ・本人と話しを何回も行い、自分が行きたいところを大切に進路を決めました。
- ・本人がやりたいことを尊重し後押しする。
- ・最初に本人が行きたいところと受け入れができるところと違っていたので、実習に早い段階で決めたかった。
- ・何回か実習に行かせてもらいどこが子どもに一番合っているか決めることが難しかった。最終的に本人が一番行きたい所、大好きな電車に乗って通勤できる所を選びました。



【4位以下の意見】

■長く働ける場所であること 2人

- ・目先のことだけを考えずに長いスパンで将来を見据えて、子どもが無理することなく過ごしていけるように考えて卒業後の進路を決めました。
- ・子どもが自分の力で将来長く働いていける職場をと考えました。

■本人の苦手さ（障がい特性）への対応 2人

- ・本人の希望、仕事をしている上での精神的なもの。無理のないように仕事をするこ

とだと思います。

- ・女性やお年寄りが大好きで、男性が多いところは少し苦手なので（重視した）

■両親の意見の一致

- ・両親（家族）の気持ちが一緒であることの確認（他の人の意見も参考までに）

■進路相談での連携

- ・進路相談で、学校の先生、かかりつけのお医者さん、施設の職員の方、相談支援専門員の方と連携がとれて良かったです。

■通勤の方法

- ・行き先が決まった後にバスや電車を利用することになって時刻やルートを調べるのに苦労しました。

■その他

- ・職場の人とコミュニケーションをとって仲良くなり、わからないことは何度も積極的に仕事をやって職場の方に認めてもらうことが一番大切だと思います。

進路指導主事のコメント 「進路選択で大切にしたいこと」に関して



【1位からわかること】

子どものことを一番よく知っているのは親ですから、親の印象はとても重要です。そのためには、保護者が施設ののことをよく知っておくことが大切だということです。それには見学が一番。早いうちからいろいろな施設を見学しておきましょう。

それから、現場実習を最大限に生かすことが大切です。言葉で感想を伝えられないお子様も、実習日誌による実習先とのやりとりや、帰宅してからの様子などでかなりの確に判断できると思います。

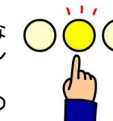
また、実習の様子を見学してみることも大変おすすめです。単に施設の箱物見学だけでなく、責任者の方から基本的な経営理念をお聞きしたり、お子様がそこにいる雰囲気や施設職員のようなす等を具体的に確かめたりできるチャンスです。

【2位からわかること】

本人の得意なことを増やすことは、進路の選択肢を増やすことにつながるといえます。まず家族がお子様のよいところ（アピールポイント）を見つけたたり育てたりすることが欠かせません。

親が子どもの良いところを見つけ、それを子どもに伝えていく経過の中で子ども自身の自己評価も高まります。

また、会社への就職を目指す場合は特に、アピールポイントの多さが就職への準備につながります。ご家族が任せて安心と思うぐらい徹底して家事に取り組ませる等、非常に大切です。



【3位からわかること】

本校キャリア教育のキャッチフレーズでもある「かかわる」「きめる」「はたらく」の三つの力のうち、「きめる」力の育成が大切です。

常日頃からいろいろな場面で、自己選択・自己主張する経験をたくさんさせておきましょう。たとえばお菓子や飲み物などの自己選択を2択から始めるなど身近で簡単なことから良いと思います。

【その他の意見からわかること】

進路選択に当たっては、本人が十分活躍できる（適応できる）ことが重要です。そうしないと、背伸びしすぎて続かなかったり、ストレス過多な生活になったりします。

そのために大切なのは、進路相談等でたくさんの人たちと意見交換し互いに納得することであり、そういう意味からも両親の意見の一致というご意見はとても参考になります。

Q 2 卒業という節目に感じることは何ですか？

① 家庭の取組でやって良かったと思うこと

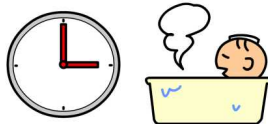
【1位】家事・手伝い 4人

- ・手伝いや自分のことは自分ですること、自分で選択させることくらいです。
- ・家の手伝いをやってもらうことで、自分でやれることを増やしていきました。
- ・家庭での手伝いも仕事のひとつとして毎日やり遂げる満足感や達成感を味わうことができるようになりました。
- ・お手伝いをするようにしてそれにより日々の小遣いを与えお金の大切さを教えました。



【2位】健康・生活リズム 3人

- ・就職に向けた生活リズムを親子で考えて実行すること。
- ・早寝・早起き
- ・好き嫌がなく何でも食べること。



【3位】あいさつ 2人

- ・生活全般です。特に挨拶ができるように心がけました。
- ・挨拶。学校でも就職しても基本的なことなので小さい頃から厳しく言っていました。



【4位以下の意見】

■自分のことは自分で

- ・いろんな意味で、自分のことは自分でやること。

■親元を離れての集団生活

- ・（陽光学園で）規則正しい生活と集団の生活ができるようになった。

■自転車通学

- ・自転車通学・実習先までの通勤（体力作り）

■先の見通しを伝えること

- ・3年生になってから、12年間の学校生活が終わること、社会人になること、仕事をするということ、本人のプレッシャーにならないように日常生活の中で会話などから言葉で伝え、自覚と自信を持てるようにした。放課後デイサービスの活動の中でも取り組んでもらった。第三者からの言葉は特に本人にスムーズに入っていた。

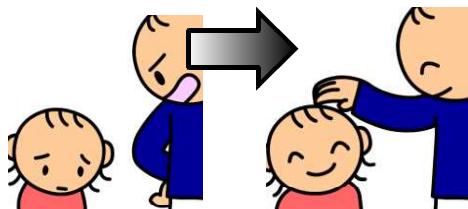


■親の障がい受容

- ・特別に何かに取り組んだことはありません。子どもが小さい頃は行動面や言葉の遅れなどでとても悩みイライラしていました。それは子どもにはすぐ伝わり、よけい落ち込んだりしました。ありのままの子どもを受け入れ開き直り、いろんな方達と接する場を作りました。今は、たくさんの人たちにいつも声をかけてもらい、かわいがられています。明るく素直で人のことも思いやれる子どもになりました。

■その他

- ・そばで成長を見守れて良かった。
- ・社会人になる自覚が出てきていること。



進路指導主事のコメント

家庭の取組に関して



【1位からわかること】

言うまでもなく「家事・手伝い」の効果は重要です。自分でできることが増えると自信がつきます。「伸び盛り」という表現がありますように、自信がついてくると、他のいろいろなことまで急に成長する例もあります。

また、できることで家族から誉められると、なおさらやる気につながるはずですね。

「働く生活」の基礎は、階層構造です。



土台(家庭生活)がしっかりしていることがとても重要です。

【2位からわかること】

はたらく生活の土台の一番の基礎部分は「健康な暮らし」です。これはとても幅広い内容を含みますが、お子様の生活を常に点検し、お子様の小さいうちから、将来を見据えてよい習慣づくりを心がけておきたいものです。

【3位からわかること】

朝起きてからの「おはよう」「いただきます」「いってきます」などの、生活の流れや場面に沿ったあいさつはもちろん、「ありがとう」「ごめんなさい」などの生活に密着したことばを「凡事徹底」しましょう。

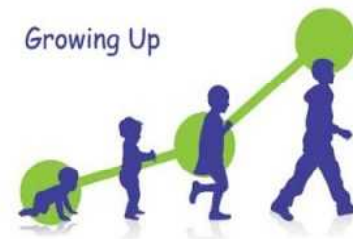
また、ことばだけでなく、態度や表情も併せてご指導いただくと、より社会で通用するあいさつになると思います。

【4位以下からわかること】

4位以下にも貴重な意見がたくさんあります。

お子さんの成長と自立に向けて必要な取組は違えども基本的な親の姿勢は共通です。是非参考にしてください。

Growing Up



「障がい受容」については、これまでもお伝えしてきましたとおり、お子さんの「できない」面ばかり見るのではなく、「できる」部分に着目し「時間を味方につけて」取り組むことが大切です。

「時間を味方につけて」とは、家庭生活は、ほぼ決まった流れの繰り返しという最大の強みを生かし、この繰り返しの生活の中で気長に焦らず、チャレンジし続けられるという考え方です。

またここで合い言葉にしたいのが「家庭は子どもの心と成長の基地」という考え方です。

安心できる家庭環境を整え、一步の歩みでも重ねれば万里につながることを見据えて取り組みたいものです。

②学校の取組で身につけた大切なこと

■対人関係（マナー・協調性） 9人

- ・あいさつ
- ・マナーだったり言葉遣いだったりいろいろ学べたことだと思います。
- ・少しは、周りを見て自分も動くことができるようになってきたと思います。
- ・相手を思いやれるようになった。
- ・生徒会長をさせていただいたことにより、リーダーシップや協調性や思いやりなどが身につきました。
- ・友達や先生、担任の先生だけでなく、班によって先生方が変わることでも人との関わり方も学んだと思う。
- ・先生方のおかげで自信を持って人前で話すことができるようになった。
- ・同じクラスだけではなく、他のクラスの子とも仲良くできたこと。いろいろな班分けで他のクラス・学年と活動できたため。
- ・友達のことを気にかけるようになりました。



■働く意識 2人

- ・卒業後は働くという意識ができたと思います。
- ・先生方のご指導により、きりっとした印象がもてるようになりました。

■責任感 2人

- ・自分の仕事や係担当に責任を持って最後までやる。あきらめずにできるまでやることです。
- ・責任を持つ役割を与えられて、たくさんの自信がもてるようになりました。

■様々な体験 2人

- ・普通の学校では学べない園芸や陶芸などいろいろな体験をさせてもらいました。
- ・いろいろな作業をやらせてもらい、家庭では絶対しないと思っていたことができるようになりました。

■集中力

- ・日々の授業（作業）で集中力が伸びた。一年ごとに作業に集中する時間が少しずつではあるがついたように思う。

■自己コントロール

- ・気持ちの切り替えとクールダウンが早くできるようになった。

■その他

- ・大きな声で自分の意思を相手に伝えること。
- ・報告連絡はできるようになってきたと思います。
- ・言葉に表せないほどいろいろな指導をしてもらいました。

進路指導主事のコメント 学校の取組に関して

学校は、子どもたちの学びを保障する場であることは言うまでもありませんが、最も大きな意義は、集団生活する場であることです。学校という集団のきまりを守り、多少の困難な事にもチャレンジし成し遂げる経験は、将来社会生活に存在する様々なきまりや役割を大切にする事へ直結しています。

また、いろいろな人たちとうまく関わっていく技術を学ぶ事にも大きな意義があります。卒業生保護者のご意見にもそれを裏付ける感想・ご意見が盛りだくさんで興味深いですね。



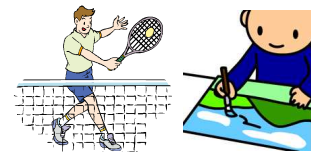
③もっと力を入れておけば良かったと思うこと

■生活の基本的行動 3人

- ・もっと手伝いをたくさんさせて、生活する力をつけておけば良かったと思います。特に料理はこれから取り組んで行きたいと思います。
- ・日常生活での基本。学校の準備、掃除、身辺整理など幼少期からもっと早く力を入れて（根気強く）身につけさせることが必要だと今思う。
- ・コミュニケーションがこれからは課題のひとつです。

■たくさんの体験 4人

- ・ひとつでも習い事をさせてあげれば良かった。
- ・興味のある事をもっと伸ばせば良かったと思います。（習い事・趣味の教室に通う）
- ・声が小さく自信なさげなのでいろいろな場所に連れて行けたら良かったなあと後悔してます。入院退院の繰り返しだったのでなかなか行けなかったこともあります。
- ・本人が出来る事は何でもさせてあげたい。



■自己管理

- ・時計を見て行動する等、周りから言われなくても自分で考えて行動する力をもっと身につけられるようにしておけば良かったと思います。

■体力

- ・体力アップ。体力が下がらないように体育を頑張ること。

■精神的なたくましさ

- ・生活面・学習面において、もう少し厳しく言って精神的に強くしていれば良かったと思います。



■進路のことを知ること

- ・親がもっと施設のことを知って、早い段階で動いていたらと思っています。

■障がいの認知

- ・まだまだ我が子にはできることがたくさんあったと思うので、もう少し早く知的障がいがあることに気づいて支援学校に行っていれば良かったと思いました。

■学習

- ・漢字検定の勉強

■字のきれいさ

- ・文字書き。もっといいねいを書くことを身につけてほしかった。

■金銭管理

- ・全く興味を示さなかったこともあるが、これからお金に関わる事は多々あるのなるべく自分で管理ができるように少しずつ教えていきたい。

進路指導主事のコメント もっと力を入れておけば良かったことに関して

卒業時点で「もっとこうすれば、、、」と感じておられるこのことが、実は後輩の皆様には一番参考になることだろうと思います。というのも、進路選択に当たって、思うとおりにいかなかったことは多いはずですし、その理由に気づいておられる場合が多いです。ですから卒業生の保護者のみなさんが肌で感じられた「もっと力を入れておけば良かったこと」は非常に参考になるはずです。



Q3 その他後輩に伝えたいことは？

【高等部の3年間はあっという間！】

- ・高等部の3年間はあっという間に過ぎるので、子どもが自分でできるようになることをたくさん増やしてってください。(私が出しすぎたので子どもは私にしてみようものと思って自分のもも自分でしないようになっていたので反省しました。)
- ・3年間はあっという間に過ぎていきます。いろいろなことにチャレンジし悔いのない学校生活を送ってください。



【個性を生かし伸ばす】

- ・その子の個性を生かし、できることは伸ばしてあげる環境を親と先生が作ってあげることが大事だと思います。
- ・現状に満足せずにまだ成長する部分を伸ばしていくとよいと思います。

【いろいろな情報収集】

- ・施設の責任者の話など支援に携わっている方の話が勉強になります。
- ・学校の先生やかかりつけのお医者さん、施設の方、相談支援専門員等、相談ができる方にいろんな助言を聞いた方がよいと思います。



【悩みの解決のためには... 話すこと】

- ・どんなことでも悩みなど誰かに話すことで楽になると思います。子どもから教えてもらうこともあるし、聞き直るのもとても大事だと思います。

【その他の感想・意見】

- ・いろんなところに実習に行くのもいいですが、自分が何をしたいか等考えてから決めた方がよいと思う。(現実には)なかなか厳しいですが。
- ・私たちのように仲良く協力しあって、きずなを深めて団体戦で頑張ってもらいたいです。
- ・将来に向けて、自分の目標を設定していくことが大事だと思います。
- ・何事も自信を持って自分を大切に。
- ・学校を休まないこと。



編集後記

特別支援学校は、12年間という幅広い年齢層の子どもたちが「ともに学ぶ場」であり、視線を広げるだけで、少し未来、遠い未来を身近に見ることのできる場所です。

ですから児童生徒のみならず保護者にとっても非常に重要な学びを与えてくれるものと期待できます。

そういう意味で特別支援学校は、障がいのある児童生徒の「キャリア教育」の拠点ともいえるべき場所であり、私たちは子どもたちの成長の姿に、親の喜びや悩みの姿に、たくさんの示唆をいただくことができます。

今回の特集では、卒業という節目にタイムリーな企画としてお届けしました。

「卒業」そして「進学・進級」の春。

親も子も、先輩の卒業されていく姿にあこがれ、しばし感慨を深めて、各自の次のステップを考える節目にしていいただければ幸いです。(谷口)

<お知らせ>

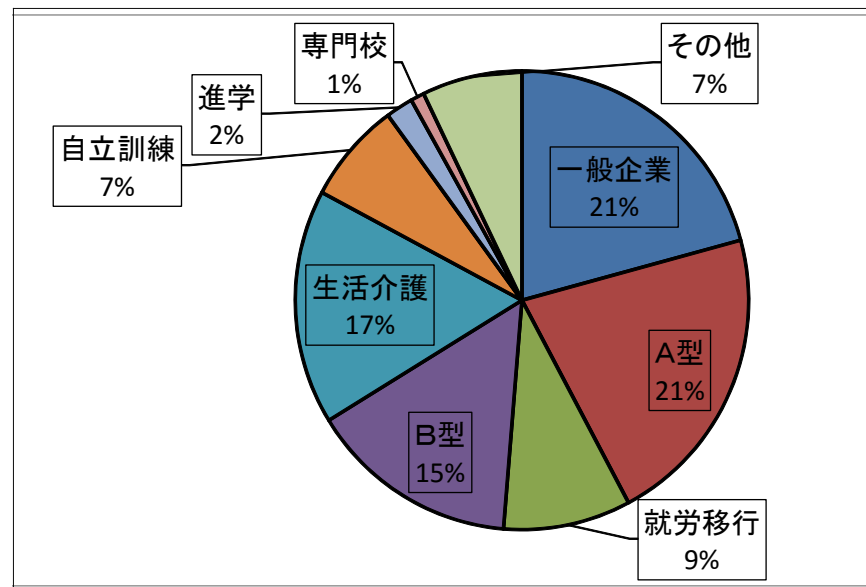
「わーく&らifu」は、荒尾支援学校のホームページから見るができます。

荒尾支援学校HPトップにある「進路室」からご覧ください。



参考資料 熊本県内特別支援学校卒業生の進路状況 (暫定)

一般企業	継続A型	就労移行	継続B型	生活介護	自立訓練	進学	高等技術専門校	その他	卒業生総数
64人	66人	28人	46人	51人	22人	6人	3人	22人	308人
									知的一般校 203人



いよいよ卒業生が巣立つ時期となりました。

2月末現在の、熊本県内特別支援学校卒業予定者の進路決定状況は表とグラフのようになっています。(熊本県特別支援学校進路指導主事連絡会調べ)

今春の卒業予定者総数は308人。(県立・国立・八代市立合わせて19校) 昨年度と傾向は変わりませんが、一般企業への就職とA型への就職がともに2~3ポイント上昇しています。熊本地震の影響が大変心配されましたが、各方面での相当のご尽力があったものと推察します。

卒業生総数は、盲学校・聾学校・病弱・肢体不自由児を対象とする支援学校と、ひのくにや松橋などの専門学科の卒業生も含んでいますので、荒尾支援学校のような、知的障がい教育一般校の場合は、上記グラフと比較して一般企業への就職が6ポイント少なく、その分就労継続支援A型・B型が多くなっているようです。

以上、参考までにご紹介いたしました。

